

理論言語学に関する国際シンポジウム実施報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小町, 将之 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010008

理論言語学に関する国際シンポジウム実施報告

小町将之

去る 2015 年 3 月 6 日～7 日、静岡大学人文社会科学部 B 棟 403 室において、静岡大学人文社会科学部主催アジア学シンポジウム“Shizuoka University International Symposium on Formal Linguistics”と題する国際シンポジウムを開催した。アジアにおける文化の多様性を理解するためには、文化や思想の基盤を形成する当該地域の諸言語について理解を深めることが重要である。しかし、違いを強調するばかりでも相互理解は進まない。このため共通理解の基盤となる枠組みも必要である。言語研究において、一見多様な諸言語の共通性を保証してくれるのは、個別言語間の多様性と普遍性への抽象的な理論を提供する理論言語学である。このような趣旨から、理論言語学が「アジア学」という文脈において一定の役割を果たす可能性を探るため、今回シンポジウムを企画した。

講師は、台湾、韓国、日本国内の研究機関で先端の研究に取り組む若手研究者を複数名招き、言語の統語的側面、意味的側面、および第一言語獲得の視点から研究成果についてご講演いただいた。理論言語学は専門性が高く細分化も進んでいるため、それにより敷居が高くなりがちである。今回のシンポジウムでは、この問題をできるだけ解消するため、講師には「できるだけ分かりやすく（学部学生や大学院生にもアクセスしやすいように）」お話いただくようお願いしており、それによって学生だけでなく、隣接分野の研究者同士の相互理解も促進するようこころがけた。また、特に海外からの招聘者については、第一日目にチュートリアルの講演をお願いすることによって、それぞれの研究成果が基づく理論的背景についてもお話いただく構成とした。このうえ、各講演のあとには、比較的長めのディスカッションの時間を確保し、可能な限り相互の意見交換を促進することを目指した。

こうしたシンポジウム設計の甲斐あって、シンポジウム当日は、格式ばらない雰囲気のもとで自然で率直な意見交換が進み、きわめて生産的な 2 日間となった。特に印象的だったのは、参加していた本学大学院生が、各講演に刺激を受けて、積極的に講師に質問をし、議論を求めている姿である。今後の本学における教育研究にも一定の貢献をしたのではないかと自負している。

【当日の様子】



【当日のプログラム】

Day 1 (March 6, 2015) <<Tutorial Session>>

13:00-15:00 **Tohru Seraku** (Hankuk Univerisity of Foregin Studies, Korea) “Towards a Realistic Grammar Model of East Asian Languages: An Introduction to Dynamic Syntax”

15:00-15:30 Discussion

--- Break ---

15:45-17:45 **Pei-Yi Katherine Hsiao** (Yuanpei University of Medical Technology/National Tsing Hua University, Taiwan) “Theoretical Fundamentals of Epistemic Modality and Evidentiality”

17:45-18:15 Discussion

Day 2 (March 7, 2015) <<Focused Discussions>>

10:00-12:00 **Tohru Seraku** (Hankuk Univerisity of Foregin Studies, Korea) “Topic, Focus, and Growth of Semantic Representation: The Case of Cleft Constructions”

12:00-12:15 Discussion

--- Lunch Break ---

13:15-13:45 **Miwa Isobe** (Tokyo University of the Arts, Japan) and **Masayuki Komachi** (Shizuoka University) “Temporal Adverbial Clauses in Child Japanese”

13:45-14:00 Discussion

14:00-15:00 **Kensuke Takita** (Mie University, Japan) “Issues on Ellipsis Phenomena in East Asian Languages”

15:00-15:15 Discussion

--- Break ---

15:35-17:35 **Pei-Yi Katherine Hsiao** (Yuanpei University of Medical Technology/National Tsing Hua University, Taiwan) “Epistemic Modals as Evidentials: A Case Study of Mandarin”

17:35-17:50 Discussion